

日本学術会議 基礎医学委員会 ICLAS 分科会（第24期・第3回） 議事録

日時：令和元年9月4日（火） 13：00～14：30

場所：日本学術会議5階 5-C 会議室（1）

出席者：入來、吉木、續、林元、伊佐（スカイプ）

欠席者：亀田、渡邊

事務局：船坂

入來委員長から今回から特任連携会員を委嘱された林元展人氏の紹介があり、ご本人から自己紹介を兼ねた挨拶があった。

議事

- （1）前回の議事録を承認した。
- （2）今年6月にプラハで開催された ICLAS 総会での役員選挙で ICLAS 副理事長に選任された入來委員長から、ICLAS の新体制や各種委員会などに関する説明があった（資料1、2、3）。創立以来の経緯もあり、ICLAS における日本のプレゼンスを示すことの重要性並びに日本への期待が大きいことについての説明があった。
- （3）ICLAS の新体制への日本の対応につき入來委員長から説明があり（資料4、5）、基本的には国内の実験動物学会（JALAS）の国際交流委員長である吉木副委員長を通じて JALAS に情報提供を行うとともに、JALAS の総会の開催のタイミングに合わせて、ICLAS 側から紹介のあった2021年～2023年の何れかの ICLAS 総会招致の可能性に向けた働きかけを行うことになった。その際、ICLAS 総会の開催に応じることのメリットを十分に伝えることが確認された。これについては、ICLAS の理事に就任された林元委員にも積極的に協力することとした。
- （4）JALAS の総会の開催のタイミングに合わせて ICLAS 総会開催される場合には、学術講演の英語による発表の拡大やポスターの英文化等を行えば、今後の JALAS の学術集会の国際化にも繋がるのではないか、等の意見が出された。

- (5) 国内学会との連携強化に関連して、ICLAS、JALAS 等の実験動物管理側の組織と日本神経科学会等の動物実験委員会を設置している動物使用者の側の学協会との情報交換の必要性が議論された。伊佐委員(スカイプ)からは、日本神経科学会における「神経科学分野における霊長類を対象とした実験ガイドライン」の策定状況について JALAS との協力関係などに関して詳しい説明がなされた。
- (6) 動物実験の倫理指針(ガイドライン)に関して意見交換を行った。ICLAS の新体制の中で入来委員長が担当する EQUIPD 委員会の取組みの一環として、JALAS から国内の学術団体を対象に動物実験委員会の設置状況について広く調査を行うとともに、各学術団体が独自に策定している動物実験の倫理指針やマニュアルを集めて出版し、将来的に日本から動物実験の倫理指針に関連する情報発信に結びつける提案を吉木副委員長と林元委員で JALAS に対して投げかけることとなった。また、この活動に対する ICLAS の支援・補助の可能性について、入来委員長、林元委員より、次回 ICLAS 理事会に要請することとした。
- (7) 上記の JALAS を中心とした国内の取組みをモデルとして、ICLAS を中心とした同様の活動の国際展開を実現するために、次回 ICALS 理事会にて入来委員長より、この構想を実現するための委員会(あるいはワーキング・グループ)を設置して活動を開始するとともに、その活動および各国での同様の活動を支援するための予算を計上することを提案することとした。
- (8) 今回の「議事録」に関して、幹事の續委員が「案」を作成し、会議終了後全委員にメールで確認・了承を得ることをもって、委員会として正式に承認したものとして扱う旨、出席委員の全会一致で申し合わせを行った。

以上